

関東ふれあいの道を歩く（東京）⑦山草のみち

2020年7月3日池内淑皓

2020年（令和二年）1月6日（月）正月明け一番で関東ふれあいの道を歩く事にした。
この時期日暮れが早いから駅から歩いて、明るいうちにバス停に戻るコースを選んだ。
⑦山草のみちは御嶽駅から棒ノ折山に出て、青梅線の川井駅に戻るコースであるから距離が短い。
本コースが東京を歩く最後のみちとなる。



（首都圏自然歩道連絡協議会）

青梅線御嶽駅→惣岳山→岩茸石山→棒ノ折山→清東橋バス停（ゴール）バス→川井駅概念図



今日の鉄道下車駅は JR 青梅線御嶽駅。 8：20 着の電車で歩き出す



御嶽駅は関東一の道場である御嶽山神社の玄関口であるから、駅舎の造りも神社風だ



駅を出て県道を東京方面に向けて歩き出すが、すぐ左側に見える白い大きな看板（山の呼び声）前を左折する



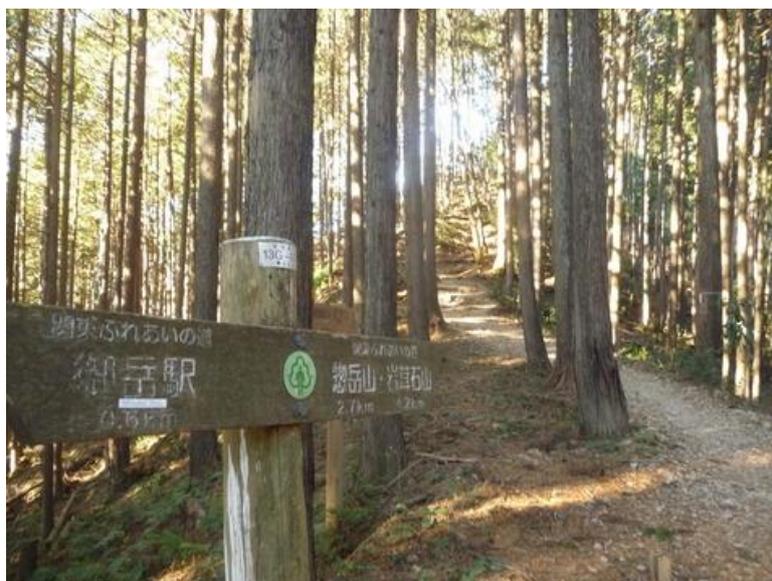
関東ふれあいの道は真言宗慈恩寺の入口から入り、境内を抜けて山道に入る



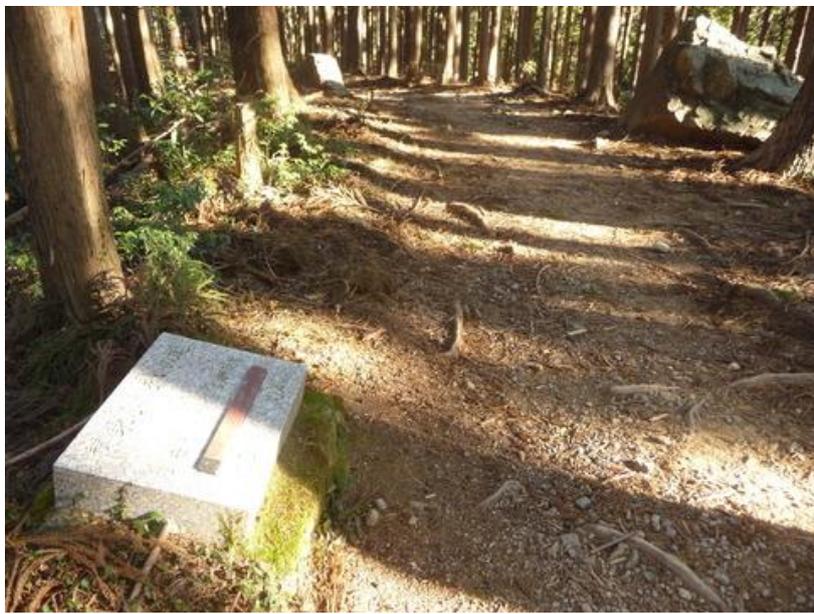
お寺の境内に案内板があった



ここの登山路も昨年の台風の影響で道が崩落している。警告だらけの道標



とにかく尾根道は谷道に比べ比較的安全で、明るい杉林の中惣岳山を目指す



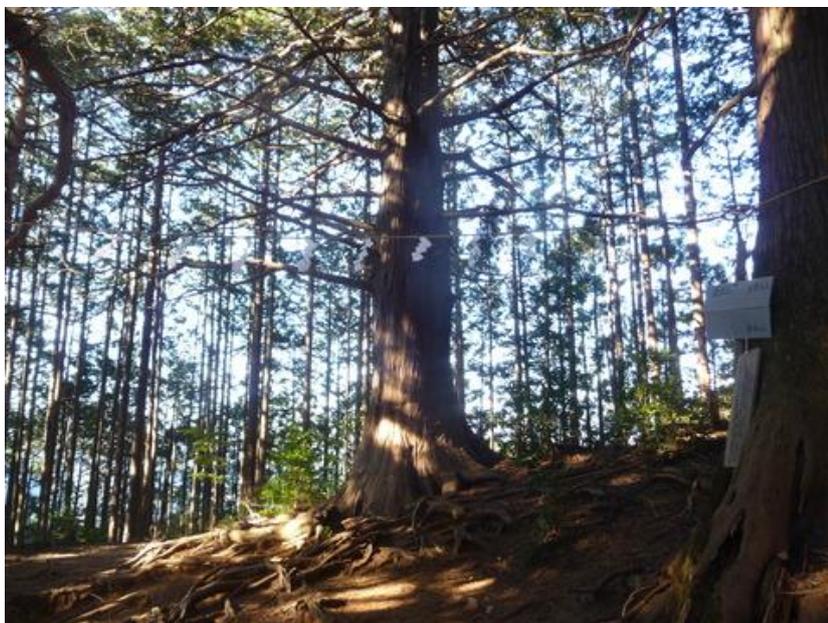
この道は高水三山へのハイキングコースと重なっているから、道はしっかりしている



空気は冷たいが、快適な杉林の尾根が続く



丹波方面から、青梅線沢井駅へ直接抜ける古道を分ける



登山道にはめずらしい樹木に出会う「しめつりの御神木」と云う、大きな杉の木に、しめ縄が張られている



惣岳山直下に祠があり、ここが水場となっているが、水は枯れている



「青渭神社」(あおいじんじゃ) 惣岳山頂上 (756m) に在り、一連の神がかりは神社由来のものか



惣岳山を越えると比較的緩やかなルートとなり、快適な歩行が楽しめる



奥多摩側は谷間で伐採が進んでいた、日影には雪が残る



真冬で木々の緑が無いのが寂しいが、横から差し込む冬の木漏れ日も乙なものだ



今日は風もなく冬としては暖かな陽気で、快適なウォークが楽しめる



「岩茸石山 (793m)」シーズンともなると人だらけという山も、冬は誰もいない



棒ノ折山方面もがけ崩れがあると言う、台風 15 号の猛威で奥多摩の谷筋は崩落のため、通行止と書いてある



黒山見ゆる、ここから1時間45分もかかる



フカフカの枯葉を踏んで快適な尾根に行く



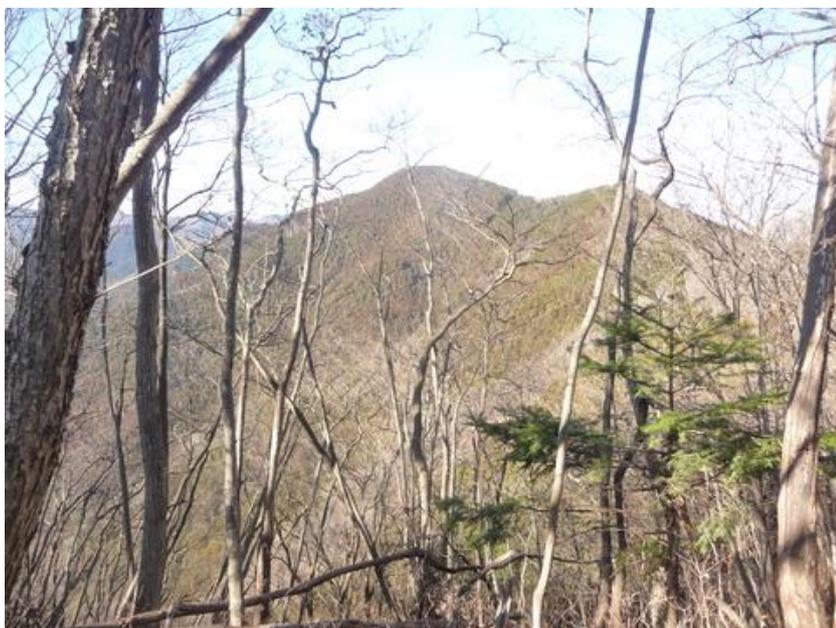
川井駅方面へのエスケープルートに分けると、急峻な痩せ尾根が待っている



痩せた岩稜帯を縫うように道を辿る



木々が生い茂っているから恐怖感はないが、高齢者は慎重に歩くべし



棒ノ折り山が見えて来た



黒山頂上（842m）



「権次入峠」（ごんじり峠）ここは関東ふれあいの道埼玉県側のルートで、右に折れば名栗・飯能に行く



「棒ノ折山（棒ノ嶺山）969m」 見晴らしは抜群



秩父方面遠望



下山路は一気到大丹波川に向かって、痩せ尾根を下る



明るい杉林があれば



北斜面は薄暗い日暮れの様相となる



谷筋に出て小沢沿いに下ると、ワサビ畑に沿って歩く



わさび畑は残るが、ほとんど先の台風で沢は削られ、壊滅している



大丹波川の林道に出ると百軒茶屋に出て、バス停清東橋は20分程。16:29発に乗れた



JR 青梅線川井駅に着くと、日が暮れた。

[参考タイム] 御嶽駅 (8:25) → 惣岳山 (10:15-10:25) → 岩茸石山 (11:15-11:25) (途中昼)
黒山 (13:10-13:20) → 棒ノ嶺山 (13:55-14:15) → 百軒茶屋 (15:30) → 清東橋 (15:45着)
(16:29発バス) → 川井駅 16:45着

この項完

関東ふれあいの道 (埼玉県) ①水源のみち に続く

本稿にて関東ふれあいの道 (東京) の部分を完歩した、次回から埼玉県を歩く